

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園
高崎ビューティモード専門学校

1. 学校関係者評価委員会

学校法人有坂中央学園 高崎ビューティモード専門学校は、「令和7年度自己点検・自己評価」の内容等を踏まえ、学校関係者評価を令和8年3月24日(火)に実施したので、下記のとおり報告します。

全体会

令和8年3月24日(火)
高崎ビューティモード専門学校

出席委員

業界関係者: 深澤 勤(株式会社サロン・ド・ジュン)
業界関係者: 須藤 圭子(ライフビューティ協同組合)
業界関係者: 船津 真奈(日本健康美容協会)
卒業生: 尾形 美夏
保護者: 鶴見 純也

2. 令和7年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

高崎ビューティモード専門学校

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・目標	<p>●教育理念・目的・目標に基づき、社会に求められる人材育成に継続して取り組んでいる点が評価された。</p> <p>●スクールガイドに掲載された卒業生の様子</p>	<p>○教育理念・目的・目標に基づく人材育成を継続するとともに、学生一人ひとりの成長過程や卒業後の活躍について、適切に把握・発信していく。</p>

	<p>から、いきいきと美容業に従事し、世の中に発信している姿が伝わり、社会に貴重な人材を送り出していると感じるとの意見があった。</p> <p>●本校の教育理念が、在学中の学びにとどまらず、卒業後の職業的成長や社会での活躍につながっていることがうかがえる。</p>	<p>○学校案内、ホームページ、各種広報物等を通じて、本校が目指す人材像や教育の特色をより分かりやすく示し、学内外への浸透を図る。</p>
<p>2. 教育課程・教育の実施・学修成果</p>	<p>●世の中の変化の速度が増し、多様性が広がる中で、本校独自の教育方法を用いた取組を継続している点が評価された。</p> <p>●変化する社会や美容業界の状況に応じて、学生の理解度や特性に配慮しながら教育内容を工夫していることは意義があるとの意見があった。</p> <p>●今後も独自の教育実践を継続するとともに、より高い学修成果につなげていくことが期待される。</p>	<p>○教育課程の編成及び授業実施にあたっては、業界動向や社会の変化、学生の実態を踏まえ、時代に即した教育内容となるよう継続的に見直しを行う。</p> <p>○本校独自の教育実践について、授業改善や学修成果の把握を通じて有効性を検証し、教育の質の一層の向上を図る。</p> <p>○国家資格取得、就職内定、各種検定取得等の目標達成に向けて、補習・個別指導・学習支援を計画的に実施する。</p>
<p>3. 学生の受入れ・学生支援</p>	<p>●担任教員は学生一人ひとりの学習面・生活面に幅広く対応しており、その負担は大きいと考えられることから、カウンセラーの配置は有効な取組であるとの評価があった。</p> <p>●学生の就職に関する相談、日々の学校生活における悩みへの対応、心のケアについては、今後も継続して取り組んでほしいとの意見があった。</p> <p>●学生が安心して学び続け、希望する進路の実現につなげるため、相談体制及び支援体制の継続的な充実が望まれる。</p>	<p>○担任による日常的な学生対応に加え、カウンセラー等の専門的支援を活用しながら、学生の心理面・生活面に対する支援を継続していく。</p> <p>○就職支援、日常相談、心のケアを一体的に捉え、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かな対応に努める。</p> <p>○学生支援に関する教職員間の情報共有と連携を図り、安心して学修を継続できる体制の維持・充実に取り組む。</p>
<p>4. 教育実施組織・教員</p>	<p>●教育実施組織及び教職員体制については、全体として適切に整備・運営されていると評価された。</p> <p>●専門教育を担う教職員が、教育目標の達成に向けて組織的に取り組む体制が維持されている。</p> <p>●今後も教員間の連携を図りながら、専門性と指導力の向上に努めることが求められる。</p>	<p>○教育課程を適切に実施するため、教員の配置、役割分担、責任体制を明確にし、安定した教育運営を行う。</p> <p>○教職員研修、授業改善、情報共有の機会を通じて、教員の専門性及び指導力の向上を図る。</p> <p>○組織的な教育改善を進めるため、教員間の連携と協力体制をさらに強化す</p>

		る。
5. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●教育環境については概ね整備されているものの、より充実した学習環境の整備が望まれるとの意見があった。 ●図書室の資料は流行の移り変わりが早いため、パソコンやタブレット等も設置することで、学生がより新しい情報に触れられる環境を整えることが有効ではないかとの提案があった。 ●従来の書籍資料に加え、デジタル環境の活用も視野に入れ、学生の主体的な学びを支える環境づくりが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育内容や業界動向に即した図書・資料の整備に努めるとともに、学生の学習支援に資する環境改善を検討する。 ○図書室等の学習スペースについて、デジタル機器の活用も含めた利便性向上の可能性を検討する。 ○施設・設備の安全管理、防災対策、日常点検を継続し、学生が安心して学べる教育環境の維持・向上に努める。
6. 教育活動の基盤と改善・向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●専門技術と人間性の両方を育む学校として、教育活動及び学校運営が適切に行われていると評価された。 ●情報公開や地域活動を通じて、本校の特色や取組を社会に広く伝えることで、さらに認知度が高まることを期待するとの意見があった。 ●学校関係者の意見を活かしながら、教育活動と学校運営の改善・向上を継続していくことが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者評価及び自己点検・自己評価の結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を組織的・継続的に進める。 ○ホームページ等を通じた情報公開を適切に行い、教育活動、学校運営、学修成果等について社会への説明責任を果たす。 ○地域社会、業界、卒業生、保護者等との連携を活かし、教育の質保証と学校運営の充実に努める。

3. 総評

上記6項目に対する学校関係者評価委員の評価は、全体として良好であった。本校の教育理念に基づく人材育成、教育課程の実施、学生支援、教職員体制、学校運営全般について、概ね高い評価を得た。

特に、スクールガイド等を通じて確認できる卒業生の活躍から、本校が社会に有為な人材を送り出していることが評価された。また、社会や美容業界の変化、学生の多様化に対応しながら、本校独自の教育実践を継続している点についても肯定的な意見が示された。

学生支援に関しては、担任教員によるきめ細かな対応に加え、カウンセラーを活用した心理面の支援、日々の相談対応、就職支援を今後も継続していくことが期待された。学生が安心

して学び、希望する進路を実現できるよう、学校全体で支援体制の維持・充実を図る必要がある。

一方で、教育環境については、図書室資料の充実に加え、パソコンやタブレット等のデジタル機器の活用を通じて、学生が新しい情報に触れやすい学習環境を整えることが望まれるとの意見があった。

今後も、学校関係者から寄せられた意見を真摯に受け止め、教育活動及び学校運営の改善に継続的に取り組むとともに、社会及び美容業界の要請に応えられる人材育成に努めていく。

以上